

## 地域の課題に応じた個体群管理と被害防除の総合的な対策

講師：野生動物保護管理事務所 濱崎 伸一郎

ニホンジカの生態や対策に関する基本的な知識として、その形態や生態が地域によって異なり、環境収容力や適正密度が変わることが挙げられます。シカの分布は 1978 年から 2020 年で 2.7 倍に拡大し、特に多雪地域での分布拡大が顕著です。全国的にはシカの推定個体数が増加しており、農業被害は捕獲や防護柵設置により軽減されていますが、森林被害や自然植生への影響は依然として問題です。

生息状況に合わせた個体群管理では、生息状況類型区分の評価と目標、計画の短周期による評価と改善、順応的管理の実行が重要です。このためには、生息状況や被害状況、土地利用、管理区分に応じて地域区分することが重要です。

モニタリングでは、管理目標や各種施策の目標に対応したデータ収集が行われ、シカの分布や捕獲、生息動向、農業被害・被害対策状況、林業被害・被害対策状況、自然植生への影響などが評価されます。また、計画の短周期による評価と改善により、年度別実施計画策定による PDCA サイクルの確立が求められます。

感染症対策としては、人獣共通感染症や獣畜共通感染症への対応が必要であり、SFTS や Q 熱、E 型肝炎、豚熱などの感染症対策が挙げられます。捕獲従事者への防疫措置や錯誤捕獲対応も重要であり、予防やリスク低減対策、放獣体制の整備、適切な報告が求められます。